

2025年度 露地アスパラガス病害虫防除暦【春どりのみ】

安全・安心な農産物生産のために 防除・使用基準を厳守しましょう

JA中野市営農センター

散布日	散布回数・時期		散布薬剤(水 100ℓ当り)		使用時期	使用回数	散布量(ℓ)	対象病害虫	注意事項
	特								
	特	萌芽直後	ユニフォーム粒剤	10a 当り 12 kg	前日	3 回以内	株元 散布	疫病	萌芽が確認出来たら、株元を中心に 畝面へ散布 平畝栽培の場合 1 か月毎に計 3 回実施
／	1	立茎開始 3 日前	アミスター20 フロアブル	50 ml	前日	4 回以内	200	茎枯病、斑点病、褐斑病	茎枯病の多発圃場は収穫打切後、全刈り を実施し、すぐに第 1 回目の薬剤を畝面 全体に散布し、乾いてから 5 cm 以上の 盛り土後、芽の高さが 2 ～ 5 cm 程度 のときに 2 回目の薬剤散布。その後 5 日 以内に 3 回目、4 回目の薬剤を丁寧に 散布する。
／	2	第 1 回散布後 5 日以内	展着剤 (ハイパワ) ベンレート水和剤	20 ml 50g	前日	4 回以内	200	茎枯病、株腐病	アミスター20 フロアブルは、①展着剤 は使用しない。②薬液が乾きにくい条 件下(夕方・曇天時)では使用しない。 ③雨露等でアスパラがぬれている状 態では使用しない。④薬剤耐性が生じ やすいので連用しない。
／	3	第 2 回散布後 5 日以内	展着剤 (ハイパワ) パレード 20 フロアブル	20 ml 50 ml	前日	3 回以内	200	茎枯病、斑点病	※1 ジマンダイセン水和剤は露地栽培 の収穫終了後の使用に限る
／	4	第 3 回散布後 5 日以内	展着剤 (アビオン E) コルト顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 ※1	100 ml 25g 200g	前日 収穫 終了後	3 回以内 6 回以内	200	ネギアザミヤ、コジラミ類、 カミムシ類 茎枯病、褐斑病、斑点病	
／	5	6 月 中下旬	展着剤 (ハイパワ) カスケード乳剤 シグナムWDG	20 ml 25g 66g	前日 前日	2 回以内 2 回以内	300	アザミヤ類、材カコガ、 ハモシトウ 茎枯病、斑点病、褐斑病	草勢維持のため状況により、薬剤散布 と併せて 7 ～ 8 月はアミノメリット特 青 500 倍の葉面散布を行う。 ※その場合展着剤不要
／	6	7 月 上中旬	展着剤 (ハイパワ) ダントツ水溶剤 ジマンダイセン水和剤 ※1	20 ml 25g 200g	前日 収穫 終了後	3 回以内 6 回以内	300	アザミヤ類、ネギアザミヤ、 カミムシ類、 茎枯病、褐斑病、斑点病	※1 ジマンダイセン水和剤は露地栽培 の収穫終了後の使用に限る
／	7	7 月 中下旬	展着剤 (ハイパワ) ロブラール水和剤	20 ml 50g	前日	5 回以内	300	茎枯病、斑点病、褐斑病	
／	8	8 月 月上旬	展着剤 (ハイパワ) プレオフロアブル ジマンダイセン水和剤 ※1	20 ml 100 ml 200g	前日 収穫 終了後	2 回以内 6 回以内	300	材カコガ、ハモシトウ ヨウムシ、ネギアザミヤ 茎枯病、斑点病、褐斑病	※1 ジマンダイセン水和剤は露地栽培 の収穫終了後の使用に限る
／	9	8 月 中旬	展着剤 (ハイパワ) ラリー水和剤	20 ml 25g	前日	2 回以内	300	茎枯病、斑点病、褐斑病	カスミカメ類の発生が多い場合は、「ダ ントツ水溶剤」(4,000 倍・前日まで・3 回以内)を散布する。
／	10	8 月 下旬	展着剤 (ハイパワ) モスピラン顆粒水溶剤 ジマンダイセン水和剤 ※1	20 ml 25g 200g	前日 収穫 終了後	2 回以内 6 回以内	300	コジラミ類、アザミヤ類 カミムシ類、アザミヤ類、 斑点病、茎枯病、褐斑病	※1 ジマンダイセン水和剤は露地栽培 の収穫終了後の使用に限る
「次年度の収量確保に向けて」9 月以降は薬剤散布と併せてメリット赤 (500 倍希釈) を葉面散布 (展着剤不要) する。									
／	11	9 月 上中旬	展着剤 (ハイパワ) ディアナ SC ロブラール水和剤	20 ml 40 ml 50g	前日 前日	2 回以内 5 回以内	300	コジラミ類、アザミヤ類、 材カコガ、ハモシトウ 茎枯病、斑点病、褐斑病	害虫の発生がない場合は、「ディアナ SC」を省いてもよい
／	12	9 月 中下旬	展着剤 (ハイパワ) IC ボルドー66D	20 ml 2kg	収穫 終了後	—	300	茎枯病、斑点病	メリット赤を混用する場合は展着剤は 不要。凝固する恐れがあるため、PK ゴーは「IC ボルドー」と混用しない。
／	13	10 月 上中旬	展着剤 (アビオン E) IC ボルドー66D	100 ml 2kg	収穫 終了後	—	300	茎枯病、斑点病	メリット赤を混用する場合も薬剤持続 性を高めるため、展着剤アビオン E は添 加する。 また、凝固する恐れがあるため PK ゴーは「IC ボルドー」と混用しない。

- (注) 1. バーナーによるアスパラガスの残茎や土壌表面の焼却は茎枯病の予防効果があり、毎年発生の多いほ場は実施する。
2. 収穫期間中、害虫の発生が見られる場合は、登録に基づきウララ DF、アデオン乳剤を散布する。
3. 散布間隔があく場合(収穫打切りの早い圃地等)や連続降雨後の定期防除の合間の防除に、**コサイド 3000** の 2000 倍液を散布する。
4. PK ゴーと薬剤を同じ容器に少量の水で溶かすと凝固する恐れがあるので、別の容器に溶かしてから散布する。

◎混用例：展着剤 ⇒ 液剤 ⇒ 乳剤 ⇒ 顆粒水溶剤 ⇒ 水溶剤 ⇒ フロアブル ⇒ ドライフロアブル(DF) ⇒ 顆粒水和剤(WDG) ⇒ 水和剤

露 地 ・ 夏 秋 ど り 栽 培 の 防 除 暦 は 裏 面 へ

当防除暦の複製・コピーを禁止します

2025年度 露地アスパラガス病害虫防除暦【夏秋どり】

安全・安心な農産物生産のために 防除・使用基準を厳守しましょう

JA中野市営農センター

散布日	散布回数・時期		散布薬剤(水 100ℓ当り)		使用時期	使用回数	散布量(ℓ)	対象病害虫	注意事項
	特	萌芽直後	ユニフォーム粒剤	10a 当り 12 kg	前日	3 回以内	株元 散布	疫病	萌芽が確認出来たら株元を中心 うね面へ散布する。なお、平うね 栽培の場合は 1 か月毎に実施す る。(計 3 回)
／	1	立茎開始3日前	アミスター20フロアブル	50 ml	前日	4 回以内	200	茎枯病、斑点病、褐斑病	茎枯病の多発圃場は収穫打切後、 全刈りを実施し、すぐに第1回目 の薬剤を畝面全体に散布し、乾い てから 5 cm 以上の盛り土後、芽 の高さが 2～5 cm 程度のとき に 2 回目の薬剤散布。その後 5 日以内に 3 回目、4 回目の薬剤 を丁寧に散布する。 アミスター20フロアブルは、①展 着剤は使用しない。②薬液が乾き にくい条件下(夕方・曇天時)では 使用しない。③雨露等でアスパラ がぬれている状態では使用しな い。④薬剤耐性が生じやすいので 連用しない。
／	2	第1回散布後 5日以内	展着剤(ハイテンパワー) ベンレート水和剤	20 ml 50g	前日	4 回以内	200	茎枯病、株腐病	
／	3	第2回散布後 5日以内	展着剤(ハイテンパワー) パレード20フロアブル	20 ml 50 ml	前日	3 回以内	200	茎枯病、斑点病	
／	4	第3回散布後 5日以内	展着剤(アビオンE) コルト顆粒水和剤 ダコニール1000	100 ml 25g 100 ml	前日 前日	3 回以内 4 回以内	200	コジラミ類、ネギアザミマ、 カスミカメムシ類 茎枯病、斑点病、 褐斑病、疫病	
／	5	6月中下旬	展着剤(ハイテンパワー) カスケード乳剤 シグナムWDG	20 ml 25g 66g	前日 前日	2 回以内 2 回以内	300	アザミマ類、材バコガ、 ハスモンヨトウ、 茎枯病、斑点病、褐斑病	
／	6	7月上旬	展着剤(ハイテンパワー) ダントツ水溶剤 ダコニール1000	20 ml 25g 100 ml	前日 前日	3 回以内 4 回以内	300	カメムシ類、アブラムシ類、 ネギアザミマ 茎枯病・褐斑病・斑点病	草勢維持のため状況により、薬剤散 布と併せて7～8月にはアミノメリッ ト特青 500 倍の葉面散布を行う。 ※その場合展着剤不要
／	7	7月中旬	展着剤(ハイテンパワー) アクセルフロアブル ロブラール水和剤	20 ml 100 ml 50g	前日 前日	3 回以内 5 回以内	300	ハスモンヨトウ 茎枯病、斑点病、褐斑病	
／	8	7月下旬	展着剤(ハイテンパワー) ディアナSC ベンレート水和剤	20 ml 40 ml 50g	前日 前日	2 回以内 4 回以内	300	アザミマ類、ハスモンヨトウ、 材バコガ、コジラミ類 ジュウホシクビナガハムシ 茎枯病、株腐病	
／	9	8月上中旬	展着剤(ハイテンパワー) プレオフロアブル シグナムWDG	20 ml 100 ml 66g	前日 前日	2 回以内 2 回以内	300	材バコガ、ハスモンヨトウ、 ヨトウムシ、ネギアザミマ 茎枯病、斑点病、褐斑病	ダニの発生が多い場合は、「コロマ イト乳剤」(1000 倍・前日まで・2 回以内)を散布する。
／	10	8月中下旬	展着剤(ハイテンパワー) モスピラン顆粒水溶剤 ラリー水和剤	20 ml 25g 25g	前日 前日	2 回以内 2 回以内	300	アザミマ類、アブラムシ類、 カメムシ類、コジラミ類 ジュウホシクビナガハムシ 茎枯病、斑点病、褐斑病	
「次年度の収量確保に向けて」9月以降は薬剤散布と併せてメリット赤(500倍希釈)を葉面散布(展着剤不要)する。									
／	11	9月上中旬	展着剤(ハイテンパワー) ディアナSC ロブラール水和剤	20 ml 40 ml 50g	前日 前日	2 回以内 5 回以内	300	材バコガ、ハスモンヨトウ、 アザミマ類、コジラミ類、 ジュウホシクビナガハムシ、 茎枯病、斑点病、褐斑病	茎葉の色が淡いなど、草勢を回復 させたい場合はメリット青(500 倍希釈)を混用する。その際、展 着剤は不要。
／	12	9月中下旬	展着剤(ハイテンパワー) ベンレート水和剤	20 ml 50g	前日	4 回以内	300	茎枯病、株腐病	ハスモンヨトウの発生が多い場合 は「プレバソフロアブル5」 (2,000 倍、前日、3 回以内)を 加用する。
／	13	10月上中旬	展着剤(アビオンE) ICボルドー66D	100 ml 2kg	収穫 終了後	—	300	茎枯病、斑点病	薬剤持続性を高めるため、展着剤ア ビオンEを添加する。

- (注) 1. バーナーによるアスパラガスの残茎や土壌表面の焼却は茎枯病の予防効果があり、毎年発生の多いほ場は実施する。
2. 収穫期間中、害虫の発生が見られる場合は、登録内容に基づきウララDF、アディオン乳剤を散布する。
3. 散布間隔があく場合(収穫打切りの早い圃地等)や連続降雨後の定期防除の合間の防除に、コサイド3000の2000倍液を散布する。
4. ICボルドー66DにPKゴーは混用しない。
5. PKゴーと薬剤を同じ容器に少量の水で溶かすと凝固する恐れがあるので、別の容器に溶かしてから散布する。

◎混用例：展着剤 ⇒ 液剤 ⇒ 乳剤 ⇒ 顆粒水溶剤 ⇒ 水溶剤 ⇒ フロアブル ⇒ ドライフロアブル(DF) ⇒ 顆粒水和剤(WDG) ⇒ 水和剤

露地・春どりのみの防除暦は裏面になります

当防除暦の複製・コピーを禁止します